

2018年5月27日(日)メッセージアウトライン 「生ける神を偶像にしてはいけない」

聖書箇所：Iサムエル4：1～11

タイトル：「生ける神を偶像にしてはいけない」

テーマ：イスラエルをエジプトでの奴隷状態から解放してくださった神の大いなる力を体験したものの、カナンのに定住したイスラエルは、次第に靈的に墮落していった。本日の聖書箇所を読むと、イスラエルの民の信仰が形だけのものになっていたことが、浮かび上がってくる。イスラエルの神は今も生きて働いておられる「生ける神」である。

このまことの神を、何の力もない木偶の坊のように取り扱ったイスラエルの姿は、私たちクリスチャンに対する警鐘にも思われる。何がイスラエルを墮落させたのか、生ける神を体験し続けるにはどうすればよいのかを考えてみよう。

1. 文脈の確認

- ①出エジプト後、カナンのにある程度征服、安住
- ②ヨシュアの警告もむなしく、イスラエルの民は偶像礼拝に心奪われた
- ③士師（さばきつかさ）の時代
- ④大祭司エリと二人の息子たち
- ⑤大祭司エリから最後の士師であり、主の預言者であるサムエルに働きが移行する時代
- ⑥周辺の敵はペリシテ人

2. イスラエルとペリシテ人の戦い

- ①はじめにイスラエル敗北（1～2節）
- ②なぜ敗北したのか、イスラエルの結論（3節）
- ③再び、イスラエル敗北（10～11節）

3. 生ける神を偶像におとしめた罪

- ①エロヒーム（7、8節）
- ②主の契約の箱（3、4、5、6、11節）
- ③何が問題だったのか
- ④私たちへの警告

4. 結論

- ①原点を忘れない
- ②真の生ける神を偶像にしてしまわないために